

## 次期文京区アカデミー推進計画の3つの多様性

### 1 3つの多様性

次期文京区アカデミー推進計画では、5分野それぞれの「多様性」の考え方を踏まえ、「人」「環境」「資源」という3つの視点から多様性を捉えるとともに、これらを重視しながら、異なる主体や分野をつなげ、相互に連携を図ることで新たな価値の創造を目指します。

#### (1) 人の多様性

---

性別・国籍・障害の有無や子どもから高齢者という年代の違い、働いている人や子育て中の人といったライフスタイルの違いを踏まえた取組、さらに人それぞれの興味・関心や能力に応じて各分野の活動を楽しめる環境づくりを推進します。

区民に加え、区内事業者、大学、交流自治体など多様な主体と連携した取組を推進します。

また、区や区民と様々な方法で継続的に関わる「関係人口」の創出を推進します。

#### (2) 環境の多様性

---

区内のスポーツ施設、教育施設、文化施設などでの取組だけでなく、区を越えた交流自治体における取組も推進します。また、施設を訪れなくても、どこでも活動を楽しめるように、オンライン形式などを活用した取組を推進します。

人々のライフスタイルの多様化に伴い、時間帯にとらわれず、自分の好きな時に好きな場所で親しめる環境づくりを推進します。

#### (3) 資源の多様性

---

区内にある豊富な文化資源や観光資源などを分野横断的に活用します。各分野の活動を支える・推進する人材の育成にも、力を入れて取り組みます。

各分野における活動内容の多様化に伴い、分野を幅広く定義する一方で、行政が担う役割や優先順位を「地域性」などの視点から明確にした上で、取組を推進します。

## 2 5分野における「多様性」の考え方（再掲）

### 学習活動

- 生涯にわたって学習活動を続けていくために、子どもの頃から学校教育とは別の「学び」の場や機会が重要である。
- 障害の有無にかかわらず参加できる講座や講演会の提供を検討する必要がある。
- 働いている子育て中の人、夜間や土日でないとしても講座を受講できない可能性が高い。平日の昼間だけでなく、夜間や土日の保育サービスの提供を検討する必要がある。
- インターネットを活用し、オンラインで「いつでも」「どこでも」学ぶことのできる環境づくりを整備することが重要である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、「オンライン」での講座や打合せが一つの選択肢として定着しつつある。一方、オンラインでは伝えきれないこともあり、「仲間づくり」や「まちづくり」には、「オンライン」と「対面」の双方の良さを活用することが重要である。

### スポーツ

- 性別や年齢、障害の有無などを受け入れ互いに認め合うことを基本概念とし、一人ひとりが同じ状況で積極的にスポーツに親しむことのできる環境づくりが重要である。
- 世代によりスポーツ実施率にばらつきがあり、働いている人や子育て中の人をはじめ、時間や場所、激しい運動等に制限のある方なども、健康で生き生きと過ごすためインターネットやCATVを活用し、気軽にスポーツに親しむことのできる環境を整備することが重要である。
- 誰もが主役としてスポーツを通して社会との関わりを持ち、社会に進出できるきっかけとなるよう、充実したサポート体制と、一人ひとりの個性に合った参画手段を選択できる環境が重要である。
- パラスポーツの普及を通じて、社会や日常の中で障害者が抱えている悩みや課題に対する区民の新たな気づきや、課題解消に向けた柔軟な発想力の向上につなげ共生社会への理解を深めるよう、多世代が生涯にわたって学び続けられる環境を提供することが重要である。
- 国や都、他自治体の政策をみると、スポーツは「する」「みる」「ささえる」の視点で活動が分けられているケースが多く、人それぞれの興味・関心や志向、能力に応じた楽しみ方や関わり方を尊重できるよう、区の地域特性を活かし、産官学民との連携を深めることが重要である。

## 文化芸術

- 文化芸術は、鑑賞して楽しむ主体の視点と表現して活動する主体の視点がある。鑑賞して楽しむ主体は、性別・年齢・障害の有無・国籍・ライフステージ等によって様々であり、幅広い人たちが親しみやすいようにすることが重要である。一方、表現して活動する主体は、プロから愛好家（個人・団体）まで、レベル別の視点も含まれる。
- 場所・空間の多様性としては、シビックセンター・アカデミー施設などの区施設、ホール、学校施設・保育園、社会福祉施設、公園、駅、神社仏閣・教会などに加えて、区を越えた交流自治体への展開も考えられる。
- 活動時間は朝・昼・夜、平日・休日など、いつでも取り組めるような環境づくりが重要であり、その一つの方法がオンラインによる動画配信と考えている。
- 文化芸術に親しむ方法として、従来の対面形式などの直接的な接点のみならず、オンライン配信（LIVE、収録）、テレビ、ラジオといった間接的な接点も含めて検討することが重要である。
- これまで伝統文化に関するジャンルに力を入れて取り組んできたが、ダンス・ヒップホップ・アニメなどの若者に親しまれやすい文化や、韓流ブームなどの海外文化等多岐に渡って文化芸術の対象となる。このような幅広い対象の中から行政が担うべき範囲を明確にしておく必要があり、「地域性」は一つの基準になると考えている。

## 観光

- 本区は、自然（花、庭園等）、歴史的・文化的遺産、文人、文化・観光施設（博物館、美術館、レジャー施設等）、花の五大まつり等のイベント等の豊富な観光資源に恵まれており、区内事業者（商店街等）、民間企業、大学、ボランティア等の様々な担い手との連携による観光振興や地域経済の活性化に向けた取り組みが必要である。
- 受け手としては、区内外を問わず子どもから高齢者、外国人等が考えられ、様々な人たちが気軽に参加でき、また本区の魅力や情報等を享受できる環境づくりが求められている。
- 情報発信や参加方法は、リアルとデジタルに大別でき、リアルは、ちらしなどの紙媒体による情報発信や対面によるまち歩きなどが挙げられる。一方、デジタルは、パソコンやスマートフォンなどを通じたホームページや SNS による情報発信、また、オンラインツアー等があり、これらの手法を効果的に活用していく必要がある。

## 国内・国際交流

- 国内・国際交流の分野では、国内交流は協定を締結している自治体、国際交流は、姉妹都市や友好都市提携をしている自治体と行っている。交流する主体は、区民、区民が所属する団体、学校（留学生含む）、区内事業者などで共通している。
- 交流の方法は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面形式に加えオンラインによる交流も増加傾向にあり、双方の良さを活用することが重要である。また、国際交流については、言語の壁があり、多言語化や、やさしい日本語による対応が求められる。
- 交流にあたってのテーマは、文化、経済、食、教育、防災、観光など幅広い分野となっており、国内・国際交流ともに共通している。
- 交流の結果、文京区と各交流地域の相互理解、異なる価値観の理解、文京区への愛着の醸成などの効果が期待できる。

## 計画の考え方

